

日本保健医療社会学会ニューズレター (No.95) 2014/10/24

目次

1. 事務局担当前任者の不祥事について (黒田会長)
2. 第 41 回日本保健医療社会学会大会への御案内 (三井理事)
3. 理事会報告 (三井理事)
4. 定例研究会報告 (進藤・林・清水・木下・朝倉の各理事)
5. 渉外・国際交流活動報告 (金子理事)
6. 編集後記 (池田理事)

1. 事務局担当前任者の不祥事について (黒田会長)

この件については、今年度大会総会で経過報告したが、その時点ではまだ調査中・検討中だった事項について、2014 年度第 2 回理事会 (8 月 1 日) において学会事務委託先より報告があった。それによると、

- (1) 調査の結果、当学会の 2011 年度会計においては、不正行為は発見されなかった。
- (2) 被害は、当学会を含む 3 学会で発見された。当学会の確定している被害総額は、710,598 円である。
- (3) 2014 年 6 月 3 日に刑事告訴状を警察に持参し、警察側ではすでに捜査を開始しているが、いまだ正式受理扱いとはなっていない。

また、「被害拡大防止策」として、支出作業手順の見直しと手順遵守、帳簿類の不正操作防止の対策をすでにとっているとのことであった。さらに、第三者機関による内部統制・業務プロセス改善のためのプロジェクトがすでに開始されているとのことであった。

この報告を受けて、理事会としては、2014 年度の学会事務委託の契約は継続すること、そして、当学会が受けた被害として、金銭的な被害は速やかに学会事務委託先により補償されており、その他の被害としては、2014 年度予算案作成の際に、参照すべき 2013 年度決算案が粉飾されていたということが考えられるが、この被害に対しては、補償は求めないことを決議した。

なお、理事会としては、上記の (2)、(3) については最終的な報告を待つとともに、2015 年度に関しては、この報告および現担当者に交代以後の委託業務遂行の具合を評価して、契約を継続するか否かを 12 月の理事会で審議することとした。

2. 第 41 回日本保健医療社会学会大会への御案内 (三井理事)

1) 三井さよ (第 41 回日本保健医療社会学会大会長) 挨拶

2015 年 5 月 16 日 (土)・17 日 (日) に、第 41 回大会を開催いたします。会場は、当初は法政大学多摩キャンパスの予定だったのですが、都合により、首都大学東京・荒川キャンパス (以前開催した南大沢キャンパスではありませんのでご注意ください) での開催となりました。

大会のテーマは「生活モデルへの転換」としました。個人的なことを書いて恐縮ですが、私自身が保健医療社会学にかかわるようになったのは 1990 年代半ばです。その頃から約 20 年間

が経ち、当時見えていた医療の世界や理念と、今日のありようとの間に大きな変化があるのを感じます。1990年代といえば、インフォームド・コンセントが謳われ、「キュアからケアへ」といわれ、医療と福祉の連携が必要だとされ、セルフケアが重要だといわれました。いまは、医師が患者の意思を無視して治療を進めるという事態は減りましたし、ケアといえば看護職だけでなく介護職をはじめとした多くの職種が生まれ、医療と福祉の接点は増え、インターネットなどを通じて患者が医療的知識や情報を入手することも容易になりました。

ただ、望まれていたように変化したのかというと、必ずしもそう簡単にはいえないように思います。ICUでは患者の家族が、延命治療をどこまでするのかと、患者の生死の境目を決定することを迫られます。医療と福祉の接点は増えたけれども、看護職と介護職がスムーズに意思疎通できているかといえば、必ずしもそうとはいえません。セルフケアが重視されることが、ある種の障害を持つ人々への排除に転化している面も否定できないように思います。何より、「病院から地域へ」と謳われ、実際に病院組織も大きく変容している中で、では地域で暮らすための条件が整ったかということ、まだまだといわざるを得ないように思います。

この20年の変化とは何だったのか。何が変わり、何が変わらなかったのか。本当は、どう変わるべきだったのか。これらのことを、いま改めて振り返り、問い直すことで、新たな保健医療社会学の課題も見えてくるでしょう。第41回大会は、これらのことを踏まえ、会員の皆様と一緒に考える機会とできればと存じております。

なお、第41回大会から、これまで大会開催校に多大な負担をおかけしていた状況を見直し、理事会との間で業務分担の再検討を行っています。それにともない、これまで1月末から2月中旬に設定されていた一般演題募集の〆切を、12月末から1月上旬に早めたいと考えています。具体的な日程が決まり次第、会員の皆様にもお伝えいたしますので、早目のご準備をお願いできればと存じます（なお、RTDの〆切は例年通り12月下旬です）。

2) 大会シンポジウム

「この20年で医療はどう変化したか?——生活モデル/セルフケア/自己決定」

猪飼周平 (一橋大学) 「病院の世紀から地域包括ケアの時代へ」

松繁卓哉 (国立保健医療科学院) 「患者中心/セルフケアとは何だったのか」

田代志門 (昭和大学) 「死にゆく人々へのケアはどう変化したか」

コメンテーター: 美馬達哉 (京都大学)、戸ヶ里泰典 (放送大学)

司会: 吉田澄恵 (東京女子医科大学看護学部)

趣旨: この20年間の間に、医療は、医療者によって病院内で施されるものから、患者の生活の場により近いところで、患者自身の思いや状況に応じて提供されるものへと、理念上は大きく舵を切った。ただし、現状として政策面・現場で実現したものは、必ずしも1990年代に理念的に語られたものと同じではない。いったい何が変わり、何が変わらなかったのか、本来はどう変わるべきだったのか。若手研究者を中心に、この20年間の振り返りを通して、今後の医療・福祉のありようを構想する手がかりとしたい。

3) 教育講演

大森健 (IMI 首都圏ブロック) 「人工呼吸器から見える医療/家庭/社会」

司会: 鷹田佳典 (早稲田大学)

趣旨: 家庭内で使用する人工呼吸器の使用やトラブル対応を通して、現在の医療制度のありよ

うや、難病を抱えて生きる人とその家族の姿、またそれらを取り囲む社会のありようが見えてくる。メーカーに勤めつつ、患者会などと協力しながら、実際に機器を用いる人たちのそばで考えてきた方から見える医療／家庭／社会についてお話を伺うことで、今後の保健医療社会学の新たな展開を探りたい。

3. 理事会報告（三井理事）

2014年度第2回理事会議事録

日時：2014年8月1日（金） 14：00～17：00

会場：（株）国際文献社 アカデミーセンター 4階会議室

出席者：黒田会長、三井理事、朝倉理事、木下理事、池田理事、金子理事

事務局 平野（記）

欠席者：小澤理事、清水理事、進藤理事、林理事

1) 事務局担当前任者の不祥事について

・事務局担当前任者の不祥事について学会事務委託先より2011年度の不正は行われていなかったこと、前任者担当他学会の被害について、刑事告訴の状況について報告がなされた。また、どのように不正が行われたか等が説明され、現在は第3者機関による業務プロセス改善が行われていることが伝えられた。理事で話し合いが行われ、2014年度はこのまま契約をし、2015年度の契約については不正発覚後の対応によって12月理事会にて検討することとなった。

2) 第40回大会会計報告（朝倉）

・朝倉理事より第40回大会の会計報告がなされた。2日間で174名が参加され、当日参加費の支払いが多かったため、60,000円程黒字となり、学会会計へ返金された。

3) 第41回大会報告（三井）

・三井理事より大会における理事会の役割について提案がなされた。
・自由報告の部会分け・司会依頼については理事で役割を担うこととした。第41回大会では研究活動理事、総務理事代理の金子理事、第41回大会長三井理事が行うこととし、清水理事を責任者とすることが提案された。（後日、清水理事より快諾を頂いた。）
・また、要旨集の編集については大学院生のアルバイトを雇うことにし、学会会計よりアルバイト代を支払うこととなった。
・第41回大会について5月16日～17日で開催予定のこと、教育講演1本、シンポジウム1本を検討していること、RTDについては例年通り開催することが伝えられた。
・学会事務局、ヘルプデスクより三井理事に提案をした参加申し込みシステムについて議論がなされ、12月理事会で最終決定することとした。

4) 編集委員会報告（小澤・朝倉）

・朝倉理事より25巻1号は8月上旬に向けて刊行予定であること、26巻1号の特集について在宅医療、在宅ケアに関する特集が検討されていることが報告された。
・また、小澤理事がNII電子化事業終了に関する説明会に参加し、現在の事業はそのまま進めることが報告された。NII事業終了後のJST-Liteへの移行については次期理事会へ引き継ぐこととした。
・第41回大会において編集委員会企画の若手研究者向けセミナーを行うことが報告され、

論集第1号に案内が同封されたことが伝えられた。

5) 定例研究会(関東)の報告(清水・木下)

- ・木下理事より平成26年度第1回定例研究会は9月6日(土)14:00~16:00に首都大学東京秋葉原サテライトキャンパスにて開催されることが報告された。
- ・また、第2回は次期大会のプレセミナー的な位置づけでの講演を検討中であること、RTDや一般演題の応募への対応、セッション分け、座長の選任等を大会長との協力の下に進めることが伝えられた。

6) 定例研究会(関西)の報告(進藤・林)

- ・進藤理事、林理事が欠席のため、特に報告事項はなかった。

7) 看護・ケア研究部会報告(朝倉)

- ・朝倉理事より7月26日(土)に第1回研究会が開催されたことが報告された。今年度は9月、11月、1月、3月に開催する予定であることが伝えられ、案内については定例研究会同様、メールで配信することとした。

8) 渉外・国際交流活動報告(金子)

- ・金子理事より7月13日~19日に開催されたISA横浜大会は6087名が参加し、国際交流委員会のメンバーは各イベント等に関わったことが報告され、ISA横浜大会に向けて社会学系コンソーシアムが編集を行った『世界へのメッセージ』が完成し、冊子・CDが作成されたことが伝えられた。また、英語版ホームページの充実化のため論集の目次を掲載すること、過去の大会一覧をアップすることを検討していることが報告された。

9) 推薦依頼について

- ・事務局へ届いた推薦依頼について、学会としての性格上、会員の中から被推薦者を選抜して推薦することが難しいため、原則的に推薦しないこととなった。

10) ニューズレター95号の発行について(池田)

- ・池田理事より94号の配信後に園田賞受賞者の所属について訂正の依頼があり、訂正のみのメールを配信したことが報告された。また、編集方針について確認がなされ、95号の記事構成について審議された。

11) その他

- ・通常会員1名の入会が承認された。

4. 定例研究会報告(進藤・林・清水・木下・朝倉の各理事)

1) 関西定例研究会(進藤理事・林理事)

平成26年度の関西定例研究会の第1回目を、下記要領にて行いますので、ふるってご参加ください。なお、第2回目は来年の2~3月を予定しております。

2014年度第1回研究会

日時:平成26年11月8日(土)13:00~16:00

場所:大阪市立大学杉本キャンパス(学術情報センター5階 AVホール)

<https://http://www.osaka-cu.ac.jp/ja/about/university/access>

報告者:山田陽子先生(広島国際学院大学)

テーマ:自殺の精神医療化と労災補償—職場のメンタルヘルスと責任帰属

概要:心理学化、医療化、個人化という問題意識を基底に抱きつつ、職場のメンタルヘルス

というフィールドで多年にわたって研究を続けてこられた山田先生に、近年の成果を講演いただきます。単著としては『「心」をめぐる知のグローバル化と自立的個人像』（学文社, 2007）があります。過労死、労働者の自死、労災補償というきわめてアクチュアルな問題に、理論的視点を組み込んだフィールドワークからの興味深い発信がうかがえると期待されます。

会場が、今回は大阪市立大学の杉本キャンパスの学術情報センター内となります。利用施設は図書館内部となりますので、ご来場のおりには玄関正面内部で受付までお立ち寄りください。多数の方々の参加をお待ちしています。

2) 関東定例研究会（清水理事・木下理事）

平成 26 年度の定例研究会（関東）については、年 2 回の開催を予定しています。第 2 回の開催は平成 27 年 2 月～3 月を予定しています。決定次第、随時学会のホームページ、メーリングリスト等でご案内いたします。

・平成 26 年度第 1 回定例研究会（関東）のご報告

日 時：平成 26 年 9 月 6 日（土）14:00～16:00

場 所：首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス会議室 A・B

報告者：青木美紀子先生（聖路加国際病院遺伝診療部 看護師・認定遺伝カウンセラー）

タイトル：遺伝カウンセリングの現状と社会との関わり—遺伝性腫瘍—

青木先生からは、聖路加国際病院での遺伝医療に携わる認定遺伝カウンセラーとしての経験も踏まえた報告をいただいた。まず遺伝医療の多様性として遺伝医療に含まれる医療の種類や対象者の多さ、関わる診療科や職種の多さが特徴として示され、次に遺伝性乳がん卵巣がん症候群を中心に遺伝性腫瘍の説明、病院での取り組みが報告された。

最後には検査結果が血縁者を巻き込むものであること、現在は重要性が分からない遺伝情報が、将来的に重大な内容をもたらすことが分かった場合どうするのかといった問題や、近年国内でも誕生した遺伝子検査ビジネス、また予防的手術の保険適用やカウンセリング体制の充実や人材の育成など遺伝医療の社会的側面についても指摘がなされた。

報告後、数名の参加者と講師との間で自由討議が行われ、著名人に関する報道でその存在を知る者は増えたが、報道では伝えられない外国で“previvors”と呼ばれている非発症の保因者の問題が血縁者にも広がる可能性があることなど、遺伝医療の特殊性についての活発な意見交換がなされた。

3) 看護・ケア研究部会（朝倉理事）

看護・ケア研究部会 11 月定例会

日時：11 月 15 日（土）13:00～15:30

場所：国立社会保障・人口問題研究所 第 4 会議室

発表者：西原かおりさん（神戸医療福祉大学）

発表テーマ：「高齢者自身がつ性意識と高齢者のイメージと

看護師がつ性意識と高齢者のイメージ」

※開催場所の地図は以下をご覧ください。

<http://www.ipss.go.jp/pr-ad/j/info-j/map.html>

※交通案内

都営三田線 内幸町(A6 出口)徒歩 3 分
営団丸の内線 霞ヶ関(B2 出口)徒歩 7 分
営団日比谷線 霞ヶ関(A10 出口)徒歩 7 分
営団千代田線 霞ヶ関(C4 出口)徒歩 5 分
JR 新橋 日比谷口 徒歩 12 分

看護・ケア研究部会 9 月定例会報告

日 時：9 月 13 日 (土) 13:00～15:30

場 所：国立社会保障・人口問題研究所 第 4 会議室

報告者：本多康生さん (福岡大学)

発表テーマ：「東日本大震災被災地における民生委員の活動」

要旨：2011 年 3 月の東日本大震災で被災した東北沿岸部 A 町の民生委員への全数調査をもとに、民生委員が自らも被災した困難な状況の中で、発災時から避難所生活、さらには応急仮設住宅での生活に至る過程で、どのような活動を行ってきたのかを考察した。町内外の仮設完成に伴い、担当区は再編され、多くの委員は従来の担当区に残された世帯以外に、仮設や他の地区をも割り当てられ、活動を継続する上で多くの困難を経験してきたことが示された。報告後の質疑では、民生委員活動と公私の関係性、災害時要援護者登録制度の妥当性、生活支援員制度との関連、ジェンダーの問題、などについて討議が行われた。

*看護・ケア研究部会に関する問い合わせ先

看護・ケア研究部会へのお問い合わせ、入会希望者のご紹介などは、庶務までご連絡ください。メールまたは郵送・FAX で入会案内をお送りいたします。例会見学も随時受け付けております。

日本保健医療社会学会 看護・ケア研究部会

2014～2015 年度 役員

会長・中村美鈴、副会長・朝倉京子、会計・松繁卓哉、庶務・白瀬由美香 (事務局)

e-mail: shirase-yumika@ipss.go.jp (事務局)

5. 渉外・国際交流活動報告 (金子理事)

・7 月 13 日～19 日に開催された ISA 横浜大会 (第 18 回世界社会学会議) は、104 の国と地域から計 6,087 名の登録参加者を得て、過去最大の大会となりました。参加された会員の皆様、お疲れ様でした。また、本大会に向けて社会学系コンソーシアムが編集を行った『世界へのメッセージ』が完成し、冊子・CD が作成されました。社会学系コンソーシアムのウェブサイト (<http://www.socconso.com/message/index.html>) で閲覧できます。

・国際社会への情報発信を強化するために、英語版ウェブサイトの充実化を図ります。具体的には、論集の目次を掲載すること、また過去の大会一覧をアップすることを検討しています。

6. 編集後記

・本学会の米林喜男会員より、本学会の前身になります「保健・医療社会学研究会」に関する資料 (1974 年 1 月 5 日～1989 年 2 月) の借覧させていただきました。現在その電子化された情報の公開にむけて作業中です。資料体には個人情報等が含まれていますので、今後は精査

をおこない、公開可能なものに関しては順次 p d f 資料として公開していくつもりです。御期待ください。

- ・日本保健医療社会学会ニュースレターは第 92 号からは p d f ファイルのメールマガジン形式で配信しています。もしメールマガジンの文字が読めない場合などの受信に問題がある場合は、恐れ入りますが、日本保健医療社会学会事務局（下記）まで御連絡ください

<http://square.umin.ac.jp/medsocio/index.htm>

発行：日本保健医療社会学会

編集：会報広報担当（池田光穂）

学会事務局：

東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター

jshms-office@bunken.co.jp

03(5389)0237